

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第53号(平成31年1月発行)

平成30年7月12日(木)に平成30年第2回定例会が開会され、7月30日(月)に一般質問と議案1件の審議が行われました。

一般質問では、山本勝議員(三重県議会選出)と小川政人議員(四日市市議会選出)が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

山本 勝 議員



○ **四日市港長期構想で四日市地区は交流ゾーンと位置づけられているが、同地区の将来像について考えを聞きたい。**

◎ 四日市地区は、四日市市の中心市街地に近接するとともに、歴史的・文化的資源や、運河等の港ならではのレトロな景観、潮吹き防波堤などの国の重要文化財を有しているが、一方で、港は県民・市民にとって遠い存在として捉えられる傾向もある。

そのため、老朽化した物揚場の緑地への利用転換や、駅周辺に港の名所も示した観光案内板等を設置するなど、人の流れを港へ誘導する取組を進めているところである。また、四日市旧港まちあるきイベントの開催や、まちあるきの見どころ等を紹介する「四日市旧港まちあるきMAP」の作成・配布を行った。さらに、同地区への客船や自衛艦の寄港の働きかけも行っている。

しかし、四日市港長期構想に示す交流ゾーンの形成にはまだまだ至っていない状況であり、今後も引き続き、イベントの開催や緑地整備などに取り組んでいく。あわせて、現在、次期四日市港戦略計画の策定を進めており、同地区のさらなる賑わいづくりにつながる方策について検討していきたいと考えている。

小川 政人 議員



○ **東海豪雨時の十四川水害について、昨年の私の質問に対し、「樋門の閉め忘れ、ポンプが全部動いていなかった、そういうエラーがあった。」と答えたが、その後、地域住民に説明がされていない。**

◎ 当時は異常な記録的な豪雨で、原因は天災と認識している。

○ **去年の答弁では、そんな話は1個も出ておらず、ヒューマンエラーで水害が起こったとなっている。**

◎ 現在でもヒューマンエラーと認識しているが、それは当時ポンプの自動化の対応ができていなかったことを改善してきた説明の中での発言である。

○ **ポンプの自動化は、運転ミスをなくすために行ったのであり、議論のすりかえである。樋門を閉めて、自動のポンプしか動かしてなかったのが原因ではないか。**

◎ 手動で作業するのが5分ぐらい遅れて、記録的な豪雨で異常な水位上昇により、ポンプ室、配電盤と浸水して、停電した。ヒューマンエラーは事実だが、認識のずれがある。

○ **上流に狭い箇所があって、管理組合のポンプ容量の統計では異常な豪雨の水は流れてこないことになっている。管理者には原因を精査して調査していただくようお願いしたい。**

◎ 本件については、これまでの経緯や見解の積み重ねなどもあるので、どこをどう調査するといったのかよくご相談させていただきたい。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。